

社会福祉学科

介護福祉 専攻

2 年

科目名： 人権論					担当教員 氏名： 堀江 節子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門選択科目	講義	選択	介護福祉士(選択必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
人権侵害の場面に出会うことがある。1. 気づく 2. 当事者・被害者の立場で状況をとらえる 3. 自分との関係において問題をとらえる 4. 問題解決のために必要な情報(法律・社会保障制度など)を収集し、解決の方策を探るなど、人権について学ぶ。					人権、差別、偏見、当事者主権、関係性、支援、社会政策、ジェンダー、グローバリズム、	
授業科目の到達目標:						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 8.		
A 知識・理解力	人権侵害の状況、法律や科学的知見などの情報を収集し、問題を整理する。					
C 論理的思考力	当事者の意見や状況、社会制度などの情報を総合し、解決方法を考える。					
E 自己管理能力	自分ができるとは何かを考える。					
G 倫理観	立場や価値観によって異見がある問題を、人権の問題として考える。					
H コミュニケーション力	当事者の話を共感をもって聞き、自分の意見や気持ちを伝える。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 60 %	発表: %	実技試験: %	その他: 40 %		
特記事項: その他の40%は、授業でのワークシートによる評価。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 8回目と15回目(中間はレポート)						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: ワークシート・レポートを学生に返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①人権とは——自尊感情を育む				ライフプランを考える		
②性と人権——ジェンダー、セクシュアリティ				セクシュアリティとは何か		
③家族と人権——家父長制、性別役割分業				家族関係をふりかえる		
④子どもと人権——子どもの権利条約、いじめ				いじめについて考える		
⑤女性と暴力——ドメスティックバイオレンス、デートDV				恋人・友人との関係を考える		
⑥生きる権利——社会保障制度とホームレス問題				ホームレス者を理解する		
⑦労働と人権——ケアワーカーの人権				ケアワーカーの権利と環境		
⑧見た目問題——見た目は重要か				人として大切なことは何か		
⑨外国人の人権——「在日」問題(オールド・カマー)				植民地と「在日」を考える		
⑩労働と人権——福祉現場における外国人労働者問題(ニュー・カマー)				外国人介護士とともに働く時代		
⑪戦争と人権——戦時性暴力、日本軍「慰安婦」問題、戦争責任				戦争と人権について考える		
⑫医療と人権——ハンセン病問題、回復者の権利				感染症と偏見・差別を考える		
⑬障害者と人権——障害者自立生活運動、女性障害者				ノーマライゼーションとは何か		
⑭部落問題——部落差別の歴史、現在の問題				偏見差別に敏感な私を育む		
⑮支えあう社会——当事者主権				人権の視点をもって生きる		
使用テキスト: 視聴覚教材、プリント、資料等を使用する。				その他参考文献など: 授業中に紹介する。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 差別を受けることなく幸福に暮らすことは人として当然の権利だが、自分が人権侵害を受けたときに、その非を訴えることは容易ではない。自分への差別を社会の問題として提示する当事者の話を聴く機会を設ける。						

## 社会福祉学科

## 介護福祉 専攻

2 年

科目名： 地域福祉論				担当教員 氏名： 宮嶋 潔		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(選択必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
地域で暮らすということはどういうことなのか、すみよい地域づくりとは何かについて考え、地域福祉を推進するうえでの基本的な考え方を学び、行政・地域住民・福祉専門職等の役割と実際について理解する。						地域福祉、住民参加、社会福祉法、社会福祉協議会、協働
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6.	
A 知識・理解力			地域福祉を推進するうえでの基本的な考え方を学び、行政・地域住民・福祉専門職等の役割と実際について理解することができる。			
C 論理的思考力			地域福祉に関する知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。			
G 倫理観			尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につける。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: %		発表: 20 %		実技試験: %
その他: 30 %						
特記事項: 「その他:30%」では、授業態度について評価する。 本科目では、アクティブ・ラーニングの一環として、グループワークを活用し、学生相互の理解を深める。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第7回目と第15回目						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 第7回目と第15回目に実施するテストに評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション～地域福祉とは～				【事前】テキスト第1章を読む 【事後】①の復習		
②地域福祉の基本的考え方①～概念と範囲～				【事前】テキスト第2章第1節を読む 【事後】②の復習		
③地域福祉の基本的考え方②～理念～				【事前】テキスト第2章第2節を読む 【事後】③の復習		
④地域福祉の発展過程				【事前】テキスト第2章第3・4節を読む 【事後】④の復習		
⑤地域福祉における住民参加の意義				【事前】テキスト第6章を読む 【事後】⑤の復習		
⑥地域福祉におけるアウトリーチの意義				【事前】テキスト第9章を読む 【事後】⑥の復習		
⑦すみよい地域づくりとは・中間まとめ				【事前】①～⑥の復習		
⑧地域福祉の主体と対象①～地域福祉の主体～				【事前】テキスト第3章を読む 【事後】⑧の復習		
⑨地域福祉の主体と対象②～地域福祉の対象～				【事前】テキスト第4章第1節を読む 【事後】⑨の復習		
⑩地域福祉の主体と対象③～社会福祉法～				【事前】社会福祉法の概要を理解してくる 【事後】⑩の復習		
⑪地域福祉に係る行政組織と民間組織の役割と実際①～行政の役割～				【事前】自分の市町村の地域福祉計画を読む 【事後】⑪の復習		
⑫地域福祉に係る行政組織と民間組織の役割と実際②～社会福祉協議会の役割～				【事前】テキスト第4章第2節を読む 【事後】⑫の復習		
⑬地域福祉に係る専門職や地域住民の役割と実際①～住民の役割～				【事前】テキスト第4章3～6節を読む 【事後】⑬の復習		
⑭地域福祉に係る専門職や地域住民の役割と実際②～福祉専門職の役割～				【事前】テキスト第5章を読む 【事後】⑭の復習		
⑮地域福祉と介護福祉士・まとめ				【事前】⑧～⑭の復習		
使用テキスト: ビギナーズ地域福祉 有斐閣アルマ				その他参考文献など: 社会福祉基礎シリーズ 9「コミュニティとソーシャルワーク 新版」平野・宮城・山口 編 有斐閣		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各テーマは重複する点もあるので、配布した資料等は毎回持参すること。また、自分の地域における様々な取り組みに興味と関心を持ってほしい。						

科目名: 福祉と音楽					担当教員 氏名: 関根 双葉	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門選択科目	演習	選択	介護福祉士(選択必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
音楽の療法的意義を音楽療法事例、受講生自身の音楽体験レポート、さらに演習により学ぶ。また「音楽、オリジナル歌集作り、花を生ける」演習により人が持つ「美意識」「個性」「スピリチュアリティ」について感じ「人と音楽」について気づきを得る。これらを通して福祉現場に音楽の活用を推進する支援者を旨とする。						音楽療法 ・美意識 ・花 ・ 自然 個性 ・体験 ・スピリチュアリティ
授業科目の到達目標:						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 7.	
A 知識・理解力			音楽療法事例から対象者にとり音楽の療法的意義を理解する。			
B 専門的技術			音楽の生かし方を習得する。			
A 知識・理解力			音楽、花、自然が人に及ぼす影響について感じ考えることができる。			
H コミュニケーション力			音楽、花を介したコミュニケーションの体験を通して、コミュニケーション能力を身につける。			
G 倫理観			「生命」について考えることができる。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %		レポート: 40 %		発表: 30 %		実技試験: %
その他: 30 %						
特記事項: レポートは、テーマ①『自分と音楽』②「履修の学び」である。「発表:30%」は、演習の取り組み度、質問に対する発表とする。「その他:30%」は、授業態度、集中度とする。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポート: ①前半 ②終了時						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 全員のレポート集計により学びのテーマと関連付け学ぶ。レポートは、メッセージを添え返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①科目の概要/音楽演習				演習において積極的姿勢を表す		
②音楽演習/音楽の効果(「自分と音楽」レポートより)				自らの体験を通して学ぶ		
③音楽演習/日本の音楽(唱歌)				時代を超えた音楽に関心を持つ		
④音楽演習/花を生ける				素直な気持ちで望む		
⑤音楽演習/障害と音楽				演習を通して学ぶ		
⑥歌集・手作り楽器作成				思い入れのある布の準備		
⑦歌集・手作り楽器作成				演習を通して学ぶ		
⑧音楽演習/音楽療法事例/障害と音楽				事例に対して真摯な気持ちで学ぶ		
⑨音楽演習/実習より学ぶ/障害と音楽				事例に対して真摯な気持ちで学ぶ		
⑩音楽演習/音楽療法事例/障害と音楽				事例に対して真摯な気持ちで学ぶ		
⑪音楽演習/花を生ける				音楽的支援の演習		
⑫人・花・音楽を考える				音楽的支援の演習		
⑬音楽レクレーション				音楽的支援の演習		
⑭福祉と音楽(レポートより)				「人と音楽」について気づきを得る		
⑮福祉と音楽(レポートより)				福祉における音楽の意義を学ぶ		
使用テキスト:				その他参考文献など: 「音楽嗜好症」著:オリヴァー・サックス 「音楽療法のためのABA入門」春秋社 「老いても人として生きる全人生を高める音楽療法」著:ルース・ブライト		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 自由参加で地域の健康に関するイベントにボランティアに参加することがあります。 演習を通しての気づきを学びとしますので、積極的な演習態度を望みます。歌集作成等のため、600円程度集金します。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

2 年

科目名：社会調査の基礎				担当教員 氏名：宮嶋 潔		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門選択科目	講義	選択	介護福祉士(選択必修) 社会福祉士受験科目 キーワード
授業科目の学習教育目標の概要:						
福祉専門職として身につけておくべき利用者や地域のニーズを把握し課題を明確化するための手法である社会調査の基本的な知識と技術を習得し、また、調査における倫理や個人情報保護についても理解する。						社会調査、倫理と個人情報、質問紙、介護福祉研究
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番)		1. 2. 3. 5. 6.		
A 知識・理解力		社会調査の基本的な知識と調査における倫理や個人情報保護について理解することができる。				
B 専門的技術		社会調査の基本的な技術を習得する。				
C 論理的思考力		社会調査に関する知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。				
D 問題解決力		社会調査法を用いて、利用者や地域の課題を解決する方法を理解することができる。				
G 倫理観		尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につける。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: 30 %		
特記事項: 「その他:30%」では、授業態度について評価する。 本科目は、アクティブラーニングの一環として、社会調査を実際に行い、授業において調査結果の発表を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第7回目と第15回目						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 第7回目と第15回目に実施するテストに評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション～社会調査の意義と目的～				【事前】テキスト第1章を読む【事後】①の復習		
②社会調査の対象と統計法の概要				【事前】テキスト第2章を読む【事後】②の復習		
③社会調査における倫理と個人情報保護				【事前】テキスト第5章を読む【事後】③の復習		
④量的調査の方法①～全数調査と標本調査～				【事前】テキスト第3章第1節1を読む【事後】④の復習		
⑤量的調査の方法②～横断調査と縦断調査～				【事前】テキスト第3章第1節2を読む【事後】⑤の復習		
⑥量的調査の方法③～自計式調査と他計式調査～				【事前】テキスト第3章第1節3を読む【事後】⑥の復習		
⑦量的調査の方法④～測定～・中間まとめ				【事前】①～⑥の復習		
⑧量的調査の方法⑤～質問紙の作成方法と留意点～				【事前】テキスト第3章第2節を読む【事後】⑧の復習		
⑨量的調査の方法⑥～調査票の配布と回収～				【事前】テキスト第3章第3節を読む【事後】⑨の復習		
⑩量的調査の方法⑦～調査の集計と分析～				【事前】テキスト第3章第4節を読む【事後】⑩の復習		
⑪質的調査の方法①～観察法～				【事前】テキスト第4章第1節を読む【事後】⑪の復習		
⑫質的調査の方法②～面接法～				【事前】テキスト第4章第2～5節を読む【事後】⑫の復習		
⑬質的調査の方法③～記録の方法と留意点～				【事前】テキスト第4章第6・7節を読む【事後】⑬の復習		
⑭質的調査の方法④～データの整理と分析～				【事前】テキスト第6章を読む【事後】⑭の復習		
⑮社会調査の実施にあたってのITの活用方法・まとめ				【事前】⑧～⑭の復習		
使用テキスト: 新・社会福祉士養成講座 第5巻「社会調査の基礎」中央法規				その他参考文献など: 「社会調査」のウソリサーチ・リテラシーの すすめ 谷岡一郎 著 文藝春秋		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各テーマは重複する点もあるので、配布した資料等は毎回持参すること。また、2年生にとっては卒業研究に必要な知識と技術であるため、できるだけ多くの学生の受講を期待します。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

2 年

科目名: 社会学				担当教員 氏名: 中川 翔平		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(選択必修) 社会福祉士基礎受験資格
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
<p>私たちを取り巻く「社会」は、どのように成立しているのか? &lt;社会的なもの&gt;と&lt;個人的なもの&gt;とはどのような関係にあるのか? 私たちの日常生活とマクロな社会の構造や変容とはどのような関連をもつのか? 本講義では、社会学の基礎的な概念や理論を用いて、メディアで取り上げられるニュースや富山での事例を取り入れながら「社会」を理解する視座を涵養していく。</p>						社会学、現代社会、 行為と共同性、時間・空間・近代、 構造化と秩序
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 7. 8. 10	
A 知識・理解力			私たちが生きている社会がどのように成立しているか、その概要を理解できる。			
C 論理的思考力			私たちが直面している様々な社会問題について、考え、整理し、自分なりに問題解決に向け挑戦できる。			
G 倫理観			社会にある多様な価値観に理解を深め、自分自身のスタンスを明確にして、また、他を尊重するための基礎的な土台を身に付ける。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 70 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 30 %		
<p>特記事項: 授業の「秩序」維持のため、開始15分経過後の入室を認めない。また、私語はもちろん携帯メールをみることも、授業を無効化するため見つけ次第退室してもらう。評価方法については初回に詳細を説明するので必ず出席されたい。欠席により不利益を蒙っても講師は関知しない。</p>						
<p>テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 初回に詳細を説明する。</p>						
<p>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 第8回にて中間テスト、第15回にて最終試験とする。課題は採点后コメントをつけ返却。</p>						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①ガイダンス:社会学とは?						
②社会の諸類型				講義後、新聞で気になるニュースをチェックしておく		
③自己・相互行為・社会				配布資料の確認		
④支配の諸類型と権力・暴力装置				配布資料の確認		
⑤シンボリック相互行為論の世界				配布資料の確認		
⑥社会システム理論への誘い				配布資料の確認		
⑦中間の振り返り				これまでの講義内容と資料の復習		
⑧国民国家とグローカリゼーション				これまでの講義内容と資料の復習		
⑨メディア・コミュニティ・コミュニケーション				これまでの講義内容と資料の復習		
⑩文化と再生産				これまでの講義内容と資料の復習		
⑪医療・福祉と自己決定				これまでの講義内容と資料の復習		
⑫家族とライフコース				これまでの講義内容と資料の復習		
⑬ジェンダーとセクシュアリティ				これまでの講義内容と資料の復習		
⑭格差と貧困/包摂と排除				これまでの講義内容と資料の復習		
⑮まとめ				これまでの講義内容と資料の総復習		
使用テキスト: 特になし。必要に応じてプリント配布。				その他参考文献など:長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志編『社会学』有斐閣、2007年		
<p>受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 普段から新聞やニュースを意識的にチェックしておいてください。 レポートの際、E-mailでの提出を指示する可能性があるため、受講生は予めメールアドレスを取得しておくこと(フリーメール可、携帯アドレス不可)。</p>						

社会福祉学科

介護福祉 専攻 2

2 年

科目名：生活と法				担当教員 氏名：後藤 亜季		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門選択科目	講義	選択	介護福祉士(選択必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
無人島で誰ともかかわらずに生きない限り、私たちは必ず、いずれかの社会に属して生活することになる。社会にはルールが存在するが、中でも特に重要となるルールが法律である。講義では、社会人として知るべき社会のルール＝法律の基礎を知り、理解することを目標とする。なお、生活上重要な民法、国民参加となった裁判員裁判(刑法)、介護福祉に必要な人権について重点的に取り扱う。						法律、人権、生活、福祉
授業科目の到達目標:						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (短短マトリックスで示される番号)		2. 5. 8. 10	
A 知識・理解力			社会生活上に必要な法律的知識の獲得と理解ができる			
C 論理的思考力			法的な考え方(リーガル・マインド)の習得ができる			
D 問題解決力			社会生活上生じる様々な法的問題を解決するために、獲得した法律的知識やリーガル・マインドを使うことができる。			
E 自己管理能力			法的知識の活用により、社会生活上生じる様々な紛争を回避することができる			
G 倫理観			法律知識の獲得により、人権に対する正しい理解を得、介護に活かすことができる			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 90 %		レポート: 10 %		発表: %		実技試験: %
その他: %						
特記事項: 授業中のこちらから発言を求めた場合、これに対する発言は発言点となる。また、授業参加を求められた場合に、積極的に授業参加をしたときには、授業参加点となる。発言点や授業参加点は、テストで獲得した点数に加算され、合計点で成績評価を行うこととする。なお、授業計画は周知の上変更することがある。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 中間レポートと第15回目						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 採点して返却する。模範回答を配布する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①ガイダンス 法律学概説				【事前】自分の身の回りにある・見聞きした法律的事件を確認する		
②法律学の基礎				【事前】法律の種類を調べるとともに、裁判制度について確認してくる		
③生活上生じた紛争解決のために—民法①(法律行為・行為能力)				【事後】生活上、自分が行っている法律行為を確認する		
④生活上生じた紛争解決のために—民法②(契約・債権概論)				【事後】生活上、自分が行っている契約について、契約から生じた債権債務について確認する		
⑤生活上生じた紛争解決のために—民法③(債務不履行などの履行障害)				【事前】債権の効力を確認する		
⑥生活上生じた紛争解決のために—民法④(物権)				【事後】所有権及び不動産の物権変動について確認する		
⑦生活上生じた紛争解決のために—民法⑤(家族法)				【事後】家族法とは何か、どのような問題あり、どのような意見を持つのかまとめる。		
⑧犯罪と法—刑法①(刑事法概論)				【事前】犯罪に関するニュースを読む		
⑨犯罪と法—刑法②(犯罪とは何か)				【事後】犯罪とは何か、犯罪の成立要件を確認する		
⑩裁判員裁判を知る①(裁判員裁判の説明・裁判員裁判の体験1)				【事前】第1・2回目授業内容の確認の上、裁判員裁判について調べてくる		
⑪裁判員裁判を知る②(裁判員裁判の体験2)				【事前】第10回目授業内容の確認		
⑫人権—憲法①(国家の仕組みと憲法)				【事前】憲法とはどのような法律か調べてくる		
⑬人権—憲法②(憲法13条と14条)				【事前】自己決定権、平等権について調べてくる		
⑭人権—憲法③(介護と人権)				【事前】介護において生じる人権問題にどのようなものがあるか調べる		
⑮まとめ				【事前】第1～14回までの授業内容を確認してくる		
使用テキスト: プリント配布します				その他参考文献など: ・高校生からの法学入門(中央大学法学部) ・伊藤真の法学入門 講義再現版(日本評論社)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): レジュメを配布し、レジュメに従って授業を行います(教科書は授業中に使いません)。法律は難しいと思う人も多いようですが、皆さんにとっても大切で、また慣れてしまえば面白い学問です。できるだけわかりやすく、楽しく授業を進めていきたいと思っています。意欲的な参加を期待します。その他、受講者の希望に合わせて内容を変更することがあります。						

社会福祉学科			介護福祉 専攻		2 年	
科目名： 児童・家庭福祉論					担当教員 氏名： 司辻 正幸	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門選択科目	講義	選択	介護福祉士(選択必修) 社会福祉士受験科目
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。</li> <li>児童の権利について理解する。</li> <li>相談援助活動において必要となる法制度等について理解する。</li> </ul>					児童福祉 権利 相談	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 6. 7. 8. 10	
A 知識・理解力			児童福祉分野における総合的な知識力を高めることができる。			
B 専門的技術			相談援助に必要な情報や技術を身につけることができる。			
C 論理的思考力			児童相談援助のプロセスを理解することで思考力を身につけることができる。			
D 問題解決力			事例を検討することで問題解決能力を高めることができる。			
G 倫理観			児童の権利擁護について考えることで自己の人格的成長を図ることができる。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
試験: 50 %		レポート: 40 %		発表: %	実技試験: %	その他: 10 %
特記事項: その他とは、授業態度のことである。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 中間およびまとめて行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 試験結果の確認・手渡し、中間レポート点検、コメント記入して返却実施。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション、子ども・家庭福祉の基本的な視点、考え方				【事後】配布資料で復習		
②子ども家庭福祉とは何か 子どもと家庭の権利保障				【事前】教科書を読む【事後】配布資料で復習		
③子ども家庭福祉とは何か 子ども家庭福祉の発展				「子ども家庭福祉とは何か」を読む		
④現代社会と子ども・家庭 子育て、子どもの成長、発達、子育て環境				【事前】教科書を読む【事後】配布資料で復習		
⑤現代社会と子ども・家庭 子どもの育ち、子育てのニーズ				【事前】教科書を読む【事後】配布資料で復習		
⑥子ども家庭福祉にかかわる法制度 子ども・子育て支援制度、法体系				「現代社会と子ども・家庭」全体復習レポート 出題		
⑦子ども家庭福祉にかかわる法制度 子ども家庭福祉の実施体制・財政				【事前】教科書を読む【事後】配布資料で復習		
⑧子ども家庭福祉にかかわる法制度 子ども家庭福祉の専門職、権利擁護				【事前】教科書を読む【事後】配布資料で復習		
⑨子ども家庭福祉にかかわる福祉・保健 子どもの貧困の防止、母子保健				「子ども家庭福祉にかかわる法制度」全体復習		
⑩子ども家庭にかかわる福祉・保健 障害・難病のある子ども、健全育成				【事前】教科書を読む【事後】配布資料で復習		
⑪子ども家庭にかかわる福祉・保健 保育・子育て支援、ひとり親家庭				【事前】教科書を読む【事後】配布資料で復習		
⑫子ども家庭にかかわる福祉・保健 社会的養護、非行児童、情緒障害児童				【事前】教科書を読む【事後】配布資料で復習		
⑬子ども家庭にかかわる福祉・保健 児童虐待対策、女性福祉				「子ども家庭にかかわる福祉・保健」全体復習		
⑭子ども家庭福祉援助活動 相談援助活動、施設ケア、ネットワーク(地域)				【事前】教科書を読む		
⑮まとめ と 振り返り				【事前】全体の復習をする		
使用テキスト: 新・社会福祉士養成講座15 「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度—児童福祉論 第2版」 網野武博、柏女霊峰、澁谷昌史他				その他参考文献など: 「日本子どもの歴史」「世界子どもの歴史」第一法規出版/網野武博・柏女霊峰編著「子ども家庭福祉の新展開」同文書院/柏女霊峰「子ども家庭福祉サービス供給体制—切れ目のない支援をめざして」中央法規出版		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

2年

科目名: 介護の基本Ⅲ					担当教員 氏名: 新任教員	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
本科目は「介護の基本Ⅱ」に続いて、介護福祉士の資格や介護サービス提供の場、職能団体の役割、介護実践における連携など介護福祉士の実際を学び知識と技術を理解する。また、身体的及び精神的な変化に対する観察能力を身につける。医療・保健・福祉機関、専門職との連携、協力及び必要に応じた対応能力を養う。本科目は、アクティブラーニングを基本とし、講義内にてグループワークを行います。						介護福祉士 倫理 専門職能団体 介護サービス提供の場 連携
授業科目の到達目標:						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 4. 5. 6. 7. 8	
A 知識・理解力			介護福祉士の現状を理解することができる			
C 論理的思考力			介護実践における連携の必要性を思考することができる			
G 倫理観			介護福祉士倫理綱領から介護福祉士の倫理について考察することができる			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 20 %		発表: %	実技試験: %	その他: 30 %
特記事項: 本科目は、アクティブラーニングを基本とする為、講義中に求められる介護福祉士像、介護福祉士倫理綱領等に関して、学生間で議論する。その他の30%は、授業態度、各内容のグループワーク等の参加姿勢を評価します。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 9回目と15回目						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 試験やレポートの結果を本人に伝えます。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①介護福祉士を取り巻く状況 ※介護の目的および原則と介護職の倫理				テキスト1章1節を事前に読み、事後は資料を整理する。		
②社会福祉士及び介護福祉士法とは				テキスト1章2節を事前に読み、事後は資料を整理する。		
③介護における専門職能団体の活動				テキスト1章3節を読んでおく。会の活動を調べレポート作成。		
④介護福祉士の倫理について				テキスト1章4節を読んでおく。		
⑤居宅系サービス提供の場とその特性				テキスト2章1節を読んでおく。テキスト介護総合演習4章で確認する。		
⑥居宅系サービス提供の場とその特性				テキスト2章1節を読んでおく。実習施設での学びを振り返る。		
⑦入所系サービス提供の場とその特性				テキスト2章2節を読んでおく。テキスト介護総合演習4章3・4節で確認する。		
⑧入所系サービス提供の場とその特性				テキスト2章2節を読んでおく。テキスト介護総合演習4章3・4節で確認する。		
⑨中間評価と振り返り 地域包括ケアシステムの理解				①-⑧までの内容の振り返り		
⑩介護実践における連携とは				テキスト3章1節を読んでおく。		
⑪多職種連携について				テキスト3章1節を読んでおく。		
⑫多職種連携について				テキスト3章1節を読んでおく。		
⑬地域連携について				テキスト3章2節を読んでおく。		
⑭地域連携について				テキスト3章2節を読んでおく。		
⑮まとめ IPWとIPEの重要性の理解				⑩-⑭までの内容の振り返り		
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」中央法規出版				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 日頃からテレビや新聞等で介護や介護福祉士に関するニュースや記事に関心をもって、授業に臨んでください。						



社会福祉学科

介護福祉 専攻

2年

科目名： 介護の基本Ⅳ				担当教員 氏名： 新任教員、毛利 亘、 境 美代子、小出えり子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
介護における安全確保や事故防止の安全対策を学習する。また、利用者をはじめ介護従事者の感染対策とリスクマネジメントを習得する。さらに、保健医療に関する基礎知識について理解するとともに、介護従事者の心身の健康管理を学び、生活者としてよりよく生きる介護福祉士を目指す科目である。危機的介護場面に遭遇しても、その状況に応じた心身ケアが提供できる支援方法を習得する。また、保健医療対策と医事法制の概要について理解とともに、病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それらに対する予防的措置を講ずることができるようにする。					安全確保 リスクマネジメント 健康管理 感染管理 専門職業人としての介護福祉士	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 4. 6. 9. 10.		
B 専門的技術	危機的介護場面に遭遇しても、その状況に応じた心身ケアが提供できる支援方法を習得する。					
D 問題解決力	利用者の安全な生活を確保するために、将来の危険予測ができるクスマネジメント能力を養う。					
E 自己管理能力	感染管理に関しては、利用者への感染源にならないように、自らを律して健康管理ができる「私」を宣言する。					
F チームワーク・リーダーシップ	医療職等の他職種の役割を理解し、チームの一員として、介護に関わる専門性を発揮しながらチームケアのあり方を修得する。					
G 倫理観	人権擁護の視点に立った専門職としての介護福祉士を目指し、福祉社会に生きる「私」になる。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %	レポート: 20 %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: その他の20%は、授業態度、参加姿勢を評価します。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 試験やレポートの結果を本人に伝えます。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【境】介護における倫理の必要性と基本概念				【事前】テキストを読んでもくる		
②【境】倫理原則に基づき倫理問題を考える				【事前】テキストを読んでもくる		
③【境】倫理問題事例分析(グループワーク)				【事前】テキストを読んでもくる		
④【境】倫理問題事例分析と改善策(グループワーク)				【事前】テキストを読んでもくる		
⑤【小出】安全確保のためのリスクマネジメント				【事後】リスクマネジメントの復習		
⑥【毛利】事故防止、安全対策のためのリスクマネジメントの仕組み				【事前】テキストを読んでもくる		
⑦【毛利】事故防止、安全対策の基礎と実際				【事前】テキストを読んでもくる		
⑧【毛利】事例を通して振り返る				【事前】テキストの事例を読んでもくる		
⑨【 】健康管理の意義と目的				【事前】テキストを読んでもくる		
⑩【 】健康管理に必要な知識				【事前】テキストを読んでもくる		
⑪【 】健康管理に必要な技術				※公衆衛生の動向(保健医療対策の概要・医事法制と保健医療機関及び専門職)を含む		
※介護関係維持のための技法						
2) コミュニケーションの技法 3) 記録と情報の共有化の技法						
⑫【 】労働環境の整備				【事前】テキストを読んでもくる		
⑬【 】労働環境の改善				【事前】テキストを読んでもくる		
⑭【 】労働安全の基本原則				【事前】テキストを読んでもくる		
⑮【 】介護福祉士を目指す皆さんへ				【事後】①～⑭の復習をする		
※介護関係維持のための技法 4) 医療専門職や他の福祉専門職等との連携のあり方						
使用テキスト: 介護福祉士養成講座4『介護の基本Ⅱ』中央法規				その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介をする。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 適宜資料を配布しますので、各自で整理・保管してください。						

社会福祉学科			介護福祉 専攻		2 年	
科目名：生活支援技術Ⅲ				担当教員 氏名：小出 えり子、宮城和美		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門必修科目	演習	必修	介護福祉士(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
代表的な疾患の概要の理解をふまえ、心身に障害を抱えながら生活する人の状態・状況に応じた生活支援を身体面・精神面・心理面・社会面や福祉用具の活用から総合的に支援できる介護福祉士を目指す科目である。						個別ケア 障害の受容 ICFの視点 心身状態・状況
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 9. 10	
A 知識・理解力	医療等の介護関連知識に基づいて、障害を抱える人への生活の困難さに対する心身に合った支援方法を習得する。					
B 専門的技術	障害や病気と共に生きる人の状況を把握し、根拠に基づいた生活支援技術を習得する。					
D 問題解決力	障害や病気に伴う生活の困難さに対して、必要な情報を収集・分析し、その問題解決能力を身につける。					
F チームワーク・リーダーシップ	医療職等の他職種の役割を理解し、チームに参画して連携のあり方を学ぶ。					
H コミュニケーション力	障害や病気と共に生きる人の立場に立って考えることができる経験を積んで、社会福祉に生きる「私」になる。					
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト：40%	レポート：20%	発表：20%	実技試験：%	その他：20%		
特記事項： その他の20%は、授業態度、参加姿勢を評価します。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：テストや提出レポートにコメントを記載して返却します。						
使用テキスト： 新・介護福祉士養成講座『8 生活支援技術Ⅲ』中央法規				その他参考文献など： 授業の中で適宜紹介をする。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 適宜資料を配布しますので、各自で整理・保管してください。				※人体の構造と機能、一般臨床医学の概要、現代社会の代表的な疾病の概要等について、各回のテーマに沿って学ぶ		
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
回数						
1	【小出・宮城】オリエンテーション。利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは何か				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】①の復習する。	
2	【小出】内部障害<心臓機能障害>のある人と生活の理解				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】②の復習する。	
3	【小出】内部障害<心臓機能障害>に応じた介護				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】③の復習する。	
4	【小出】内部障害<腎機能障害>のある人と生活の理解				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】④の復習する。	
5	【小出】内部障害<腎機能障害>に応じた介護				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑤の復習する。	
6	【小出】内部障害<呼吸器機能障害>のある人と生活の理解				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑥の復習する。	
7	【小出】内部障害<呼吸器機能障害>に応じた介護				【事後】①～⑦の復習する	

※前ページよりつづき      社会福祉学科      介護福祉 専攻      2 年

科目名：生活支援技術Ⅲ		担当教員 氏名：小出 えり子、宮城和美
8	【小出】内部障害<膀胱・直腸機能障害>のある人と生活の理解	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑧の復習する。
9	【小出】内部障害<膀胱・直腸機能障害>に応じた介護	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑨の復習する。
10	【小出】内部障害<肝臓機能障害>のある人と生活の理解	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑩の復習する。
11	【小出】内部障害<肝臓機能障害>に応じた介護	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑪の復習する。
12	【小出】知的障害者と生活の理解	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑫の復習する。
13	【小出】知的障害に応じた介護	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑬の復習する。
14	【小出】精神障害者と生活の理解	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑭の復習する。
15	【小出】精神障害に応じた介護	【事後】⑧～⑮の復習する
16	【小出】高次脳機能障害のある人と生活の理解	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑯の復習する。
17	【小出】高次脳機能障害に応じた介護	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑰の復習する。
18	【小出】発達障害の人と生活の理解	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑱の復習する。
19	【小出】発達障害に応じた介護	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑲の復習する。
20	【小出】重複障害<重症心身>に応じた介護	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑳の復習する。
21	【小出】重複障害<盲ろう>に応じた介護	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】㉑の復習する。
22	【宮城】医療対応時の介護<異常発見時の介護>	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】㉒の復習する。
23	【宮城】医療対応時の介護<受診時の介護>	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】㉓の復習する。
24	【宮城】医療対応時の介護<薬剤使用時の介護>	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】㉔の復習する。
25	【宮城】医療対応時の介護<包帯法>	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】㉕の復習する。
26	【宮城】高齢者・障害者への支援方法について<富山型デイサービス>	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】㉖の復習する。
27	【宮城】富山型デイサービスの経営者から学ぶ	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】㉗の復習する。
28	【宮城】緊急時対応の知識	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】㉘の復習する。
29	【宮城】緊急時対応の技術	【事前】テキストを読んでくる。 【事後】㉙の復習する。
30	【宮城】利用者の状態・状況に応じた生活支援技術のまとめ	【事後】16～30の復習する

※第2回から第21回においては、適宜、以下の内容を扱う。

- 1) がん、生活習慣病
- 2) 各種感染症
- 3) 神経疾患
- 4) 精神疾患
- 5) 先天性疾患
- 6) 難病
- 7) その他

社会福祉学科

介護福祉 専攻

2 年

科目名：生活支援技術Ⅳ				担当教員氏名：毛利 亘		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 後期	専門必修科目	演習	必修	介護福祉士(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
介護を必要とする利用者は、さまざまな状態・状況にある人々であるということ を十分理解し、その要因となる障害や疾患の知識及び生活支援技術を演習を通して学びます。					利用者の状態・状況 視覚障害 聴覚・言語障害 運動機能障害 認知症	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 4. 5. 6.	
A 知識・理解力		障害の理解をすることにより必要な介護を組み立てることができる。				
B 専門的技術		心身の状況に応じた生活支援技術を理解し、実践に結びつけるための根拠を 考えることができる。				
G 倫理観		プライバシーへの配慮、尊厳遵守への配慮ができる価値観を修得する。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 20 %	発表: %	実技試験: %	その他: 30 %		
特記事項: その他30%とは演習への積極性および演習シートへの記述を評価するという事です。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 15回目にまとめの試験や講義をします。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: レポート及び筆記試験用紙にコメントします。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①状態・状況に応じた生活支援技術とは～運動機能障害に応じた介護:移動				テキストp60を読む・授業内容復習		
②状態・状況に応じた生活支援技術とは～運動機能障害に応じた介護:入浴				テキストp61を読む・授業内容復習		
③高齢者施設における運動機能障害に応じた介護				実習における困難事例をまとめる		
④認知症の人に適切なコミュニケーションと介護の原則				実習における困難事例をまとめる		
⑤認知症の人に適切な生活支援技術				テキストp224を読む・授業内容復習		
⑥認知症介護における生活支援の展開				テキストp232を読む・授業内容復習		
⑦視覚障害のある人への自立に向けた生活支援				テキストp10を読む・授業内容復習		
⑧視覚障害のある人への介護の留意点				テキストp15を読む・授業内容復習		
⑨聴覚・言語障害者の生活の理解				テキストp27を読む・授業内容復習		
⑩聴覚・言語障害者への自立生活に向けた生活支援				テキストp47を読む・授業内容復習		
⑪生活支援技術の応用1～施設における事例を用いた介護実践				授業③の復習・授業内容復習		
⑫生活支援技術の応用2～在宅生活における事例を用いた介護実践				授業①の復習・授業内容の復習		
⑬廃用症候群の防止と介護予防に関する支援				テキストp87を読む・配布資料復習		
⑭介護福祉士に求められる生活支援技術とは				テキストp2～p7・授業内容の復習		
⑮まとめの講義				授業の振り返り		
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座8「生活支援技術Ⅲ」中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会編集				その他参考文献など: 「持ち上げない移動・移乗技術」中央法規 移動・移乗技術研究会編集		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実技演習には積極的に参加し、他学生との意見交換を活発に行うて下さい。						

社会福祉学科			介護福祉 専攻		2 年	
科目名： 介護過程Ⅲ					担当教員 氏名： 新任教員	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門必修科目	演習	必修	介護福祉士(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
介護過程Ⅱに引続き、事例を通して介護過程の展開を実施し、思考過程を深める。介護実習で体験した事例についても振り返りながら、実践の評価の方法を習得する。介護過程の展開が適正に展開できることを目標とする。						事例 アセスメント 介護計画立案 実施評価 事例報告
授業科目の到達目標:						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 8. 9	
A 知識・理解力			介護過程の展開方法が理解でき、展開に必要な知識が理解できる。			
C 論理的思考力			介護過程を展開する上で、学んだ知識を組み立てることができ、根拠に基づいた思考ができる。			
D 問題解決力			事例を通して、介護過程を展開し介護実践の評価について理解できる。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: %		発表: 30 %		実技試験: %
その他: 20 %						
特記事項: 本科目は、アクティブラーニングを基本する為、発表30%、その他の20%は各内容の事例発表、グループワーク等の参加姿勢を評価します。30回目に介護実習Ⅱ-①で体験した事例をもとに、グループで事例報告をします。授業はグループに分かれて事例展開の演習を行ないます。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 15回目と30回目						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 試験やレポートの結果を本人に伝えます。						
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座9「介護過程」第2版 中央法規出版 「懐かしさの扉」 柘植書房新社					その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実習での事例を通して学んだ気づきを知識につなげ、介護過程展開の力を養ってください。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
1	介護実習Ⅱ-①事例から学ぶ アセスメントの実際			事前: テキストを読んでくる。 事後: 授業の復習		
2	介護実習Ⅱ-①の事例から学ぶ アセスメントの実際			事前: テキストを読んでくる。 事後: 授業の復習		
3	介護実習Ⅱ-①の事例から学ぶ アセスメントの実際			事前: テキストを読んでくる。 事後: 授業の復習		
4	介護実習Ⅱ-①の事例から学ぶ アセスメントの実際			事前: テキストを読んでくる。 事後: 授業の復習		
5	介護実習Ⅱ-①の事例から学ぶ介護計画の立案			事前: テキストを読んでくる。 事後: 授業の復習		
6	介護実習Ⅱ-①の事例から学ぶ介護計画の立案			事前: テキストを読んでくる。 事後: 授業の復習		
7	介護実習Ⅱ-①の事例から学ぶ介護計画の立案			事前: テキストを読んでくる。 事後: 授業の復習		

※前ページよりつづき

社会福祉学科

介護福祉 専攻

2 年

科目名： 介護過程Ⅲ		担当教員 氏名： 新任教員
8	介護実習Ⅱ－①の事例から学ぶ介護計画の立案 5W1Hの視点から	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
9	介護実習Ⅱ－①の事例から学ぶ援助内容と実践方法 ICFの視点から	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
10	介護実習Ⅱ－①の事例から学ぶ援助内容と実践方法 PDCAサイクルの視点から	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
11	介護実習Ⅱ－①の事例から学ぶ援助内容と実践方法 多職種連携の視点から	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
12	介護実習Ⅱ－①の事例から学ぶ援助内容と実践方法 社会資源の活用の視点から	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
13	介護実習Ⅱ－①の担当事例の振り返りと介護過程の展開 5W1HとICFの視点から	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
14	介護実習Ⅱ－①の担当事例の振り返りと介護過程の展開 PDCAサイクルの視点から	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
15	中間評価 事例検討を行い、介護過程の展開について理解する	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
16	評価の意義と目的	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
17	評価の内容 評価の項目と視点を理解する	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
18	評価の方法を理解する	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
19	評価の際の留意点を理解する 5W1HとICFの視点から	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
20	評価の際の留意点を理解する PDCAサイクルの視点から	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
21	計画修正について 5W1HとICFの視点から	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
22	計画修正について PDCAサイクル・多職種連携・社会資源の活用の視点から	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
23	事例で考える介護過程の展開 5W1HとICFの視点から	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
24	事例で考える介護過程の展開	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
25	事例から学ぶ介護過程とケアマネジメント 介護福祉専攻・社会福祉専攻・看護学科の学生によるロールプレイとディス カッションの準備	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
26	事例から学ぶ介護過程とケアマネジメント 介護福祉専攻・社会福祉専攻・看護学科の学生によるロールプレイとディス カッション	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
27	事例から学ぶ介護過程とケアマネジメント 介護福祉専攻・社会福祉専攻・看護学科の学生によるロールプレイとディス カッション	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
28	チームアプローチにおける介護福祉士の役割 IPW・IPEの視点から	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
29	チームアプローチにおける介護福祉士の役割 地域包括ケアシステムの視点から	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習
30	まとめと振り返り 介護過程を各自で展開できるか事例検討・介護過程の展開の理解	事前:テキストを読んでくる。 事後:授業の復習

社会福祉学科

介護福祉 専攻

2 年

科目名： 介護総合演習Ⅲ				担当教員 氏名： 宮嶋 潔、宮城 和美		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 前期	専門選択科目	演習	選択	介護福祉士(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
本科目は、多様な場で生活する利用者・家族とのコミュニケーションを通してサービス機能と利用者像を理解することを目標とした介護実習Ⅰ-②(訪問介護実習)、Ⅰ-③(障害者施設等実習)のための事前・事後指導科目です。					障害福祉サービス、 ホームヘルパー、家族、地域、 アセスメント、エンパワメント	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 4. 5. 6. 7. 9		
A 知識・理解力		居宅で暮らす利用者や障がい者が生活する場や生活の実際を知り、支援方法を理解することができる。				
B 専門的技術		高齢者や障がい者の生活支援技術の実践力をやしなう。				
C 論理的思考力		利用者の生活状況からアセスメントし、ニーズを思考することができる。				
F チームワーク・リーダーシップ		同職種・他職種との連携のあり方を学ぶことができる				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %	レポート： 30 %	発表： 50 %	実技試験： %	その他： 20 %		
特記事項： その他とは、授業への取り組みの姿勢や提出物の遵守をいいます。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：本科目は、アクティブ・ラーニングの一環として、実習直前に事前打ち合わせ報告会、実習直後に事後報告会を巡回教員単位で実施します。また全体で実習報告会を行います。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：テストや提出レポートにコメントを記載して返却します。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【宮城】介護実習Ⅰ-②の概要と目的および実施方法について				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】①の復習する。		
②【宮城】居宅介護事業所とホームヘルパーの役割				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】②の復習する。		
③【宮城】居宅介護のしくみと利用者について				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】③の復習する。		
④【宮城】居宅介護実習に向けた生活支援技術(家事支援)について				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】④の復習する。		
⑤【宮嶋】介護実習Ⅰ-③の概要と目的および実施方法について				演習を振り返る		
⑥【宮嶋】障がい者施設等の理解				演習を振り返る		
⑦【宮嶋】利用者支援のしくみと利用者理解				演習を振り返る		
⑧【宮嶋・宮城】中間評価と振り返り				演習を振り返る		
⑨【宮城】介護実習Ⅰ-②の記録について				演習を振り返る		
⑩【宮嶋】介護実習Ⅰ-③の記録について				演習を振り返る		
⑪【宮嶋】事前打ち合わせ訪問に向けて				演習を振り返る		
⑫【宮城】特別講義(居宅介護実習)				演習を振り返る		
⑬【宮嶋】特別講義(障害者施設等実習)				演習を振り返る		
⑭【宮嶋・宮城】介護実習Ⅰ-②、Ⅰ-③事前オリエンテーション				演習を振り返る		
⑮【宮嶋・宮城】報告会				演習を振り返る		
使用テキスト： ・新・介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」 中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会 ・「平成29年度実習要綱」				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 実習に向けての重要な科目です。積極的に取り組んでください。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

2 年

科目名： 介護総合演習Ⅳ					担当教員 氏名： 毛利 亘	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考	
1	2年次 後期	専門選択科目	演習	選択	介護福祉士(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
本科目は、次の①と②の目標を持つ実習Ⅱ－②に関する事前・事後指導を行い知識と技術を習得する。①とは、「利用者の介護計画を立案し、実施、評価、修正ができる。」また、②とは、「実習生が自ら設定する実習課題に基づき介護福祉士として必要な能力を修得する」である。					介護計画の実施 自己課題 介護計画の評価 職業倫理	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 4. 6. 9. 10		
B 専門的技術	介護を必要とする利用者の潜在能力を引き出し、発揮させることの意義が理解できる。					
D 問題解決力	「利用者の情報を収集・分析し、利用者のニーズに応じたケアプランを実践できる」課題解決能力を習得する。					
E 自己管理能力	実習を有意義にするために、心身共に自己管理できる「私」の宣言書を作成する。					
F チームワーク・リーダーシップ	他職種協働の意義を理解して、チームケアのあり方を学ぶ。					
G 倫理観	尊厳を支えるケアが実践できる介護福祉士として社会福祉に生きる「私」になる。					
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 30 %	レポート： 30 %	発表： 30 %	実技試験： %	その他： 10 %		
特記事項： その他10%とは、授業への取り組み姿勢の評価となる。アクティブラーニングを基本とし、グループワークを行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：7回目と15回目						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：試験やレポートの結果を本人に伝えます。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①実習Ⅱ－②の目的の理解と実習のオリエンテーション				事前：テキストを読んでくる。事後：授業の復習		
②【特別講義】				事前：テキストを読んでくる。事後：授業の復習		
③記録について(実施・評価の記録方法)				事前：テキストを読んでくる。事後：授業の復習		
④事前報告会				事前：テキストを読んでくる。事後：授業の復習		
⑤事後報告会				事前：テキストを読んでくる。事後：授業の復習		
⑥実習報告書作成に向けての指導				事前：テキストを読んでくる。事後：授業の復習		
⑦介護過程展開の振り返り				事前：テキストを読んでくる。事後：授業の復習		
⑧介護過程展開の振り返り				事前：テキストを読んでくる。事後：授業の復習		
⑨介護過程展開の振り返り				事前：テキストを読んでくる。事後：授業の復習		
⑩介護過程展開の振り返り				事前：テキストを読んでくる。事後：授業の復習		
⑪実習での学びを振り返る				事前：テキストを読んでくる。事後：授業の復習		
⑫実習での学びを振り返る				事前：テキストを読んでくる。事後：授業の復習		
⑬実習報告会に向けての指導				事前：テキストを読んでくる。事後：授業の復習		
⑭実習報告会				事前：テキストを読んでくる。事後：授業の復習		
⑮介護福祉士を自指す自己課題レポート作成				事前：テキストを読んでくる。事後：授業の復習		
使用テキスト： 新・介護福祉士養成講座10『介護総合演習・介護実習』中央法規				その他参考文献など： 授業の中で適宜紹介をする。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 実習Ⅱ－②の指導科目です。記録類の保管に留意してください。						



社会福祉学科

介護福祉 専攻

2 年

科目名: 認知症Ⅱ				担当教員氏名: 宮城 和美、新任教員		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
認知症の人やその家族へのケアについて学ぶ。「認知症の受容過程」への支援、家族の介護力評価、レスパイト等認知症の人とその家族を支える地域連携についても学ぶ。					尊厳の保持 パーソンセンタードケア チームアプローチ 地域連携 レスパイトケア	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 4. 5. 6. 7. 9	
A 知識・理解力			認知症の基礎的知識を身に付け、ケアに関わる専門性を発揮する。			
D 問題解決力			問題解決に必要な情報を収集・分析し、行動状況をアセスメントできる。			
G 倫理観			尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につける。			
H コミュニケーション力			他者に共感でき、相手の立場や状況を判断できる力を身につける。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 10 %		発表: 20 %		実技試験: %
その他: 20 %						
特記事項: 本科目は、アクティブラーニングを基本とする為、講義中に認知症高齢者との関わり方、より良いケアを学生間で議論する。その他20%は、授業の態度やグループワークの参加度について評価をする。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 8回目と15回目						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: テストやレポートの結果を本人に伝えます。						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
①【宮城】認知症の人の生活理解(認知機能の変化が生活に及ぼす影響)					【事前】テキストを読んでも【事後】復習	
②【宮城】認知症の人の生活理解(環境の力)					【事前】テキストを読んでも【事後】復習	
③【宮城】認知症の人の生活理解(生活を続ける)					【事前】テキストを読んでも【事後】復習	
④【宮城】認知症の人に対する介護(認知症の人へのかかわりの基本)					【事前】テキストを読んでも【事後】復習	
⑤【宮城】認知症の人に対する介護(認知症への気づき)					【事前】テキストを読んでも【事後】復習	
⑥【宮城】認知症の人に対する介護(認知症の進行に応じた介護)					【事前】テキストを読んでも【事後】復習	
⑦【宮城】認知症の人に対する介護(人が生きることを支えるということ)					【事後】①～⑦の復習する	
⑧【宮城】認知症の人の生活理解のまとめ					【事前】テキストを読んでも【事後】復習	
⑨【     】地域の力を活かす(地域におけるサポート体制)					【事前】テキストを読んでも【事後】復習	
⑩【     】地域の力を活かす(チームアプローチ)					【事前】テキストを読んでも【事後】復習	
⑪【     】家族の力を活かす(介護者自身の体験)					【事前】テキストを読んでも【事後】復習	
⑫【     】家族の力を活かす(家族へのレスパイトケアとエンパワメント)					【事前】テキストを読んでも【事後】復習	
⑬【     】家族の力を活かす(家族会と介護教室)					【事前】テキストを読んでも【事後】復習	
⑭【     】認知症に関する制度・関係機関など					【事前】テキストを読んでも【事後】復習	
⑮【     】認知症の人に対する介護のまとめ 新オレンジプランの理解					【事後】⑧～⑮の復習する	
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座12「認知症の理解」中央法規出版 「懐かしさの扉」 柘植書房新社				その他参考文献など: 介護福祉士用語辞典		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): この科目は、「介護福祉士としての専門性」として期待される分野である。しっかりマスターしてください。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

2 年

科目名： 障害の理解Ⅱ				担当教員 氏名： 新任教員、目黒 達哉		
単 位		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次	前期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
社会福祉の援助活動と心理学理論の関連について理解し、障害のある人の心理的理解を深め、家族支援、地域サポート体制について学ぶ。						障害児・者の心理 家族支援 地域のサポート体制
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 9. 10.		
A 知識・理解力		障害について理解し、介護の専門的な知識を身につける。				
F チームワーク・リーダーシップ		他職種の役割を理解し、チームワークの一員として専門性を発揮する。				
G 倫理観		尊厳を支え、人権擁護の視点を身に付けてひと・もの・ことに働きかける。				
H コミュニケーション力		他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる福祉の社会に生きる私になる。				
成績評価の方法:						
テスト: 40 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項:本科目は、アクティブラーニングを基本する為、講義中に障害者の支援、その家族の支援等を学生間で議論する。その他の20%は、授業態度、各内容のグループワーク参加姿勢を評価します。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第8回目にレポート課題があります。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 試験やレポートの結果を返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【 】障害のある人に対する介護の基本的視点				【事前】テキストを読んでくる		
②【 】視点に基づいた個別支援				【事前】テキストを読んでくる		
③【 】社会資源の利用と開発				【事前】テキストを読んでくる		
④【 】家族への支援とは何か				【事前】テキストを読んでくる		
⑤【 】家族の状態の把握と介護負担の軽減				【事前】テキストを読んでくる		
⑥【 】保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携(チームアプローチ)				【事前】テキストを読んでくる		
⑦【 】地域におけるサポート体制				【事後】①～⑦の復習する		
⑧【目黒】障害児・者の心理を学ぶにあたっての基本的理解 ※障害者の心理的理解、人間理解のための心理学理論と技法、心理的援助法の概要を含む				【事前】テキストを読んでくる		
⑨【目黒】身体障害者の心理				【事前】テキストを読んでくる		
⑩【目黒】知的障害児・者の心理				【事前】テキストを読んでくる		
⑪【目黒】自閉症の心理				【事前】テキストを読んでくる		
⑫【目黒】発達障害の心理				【事前】テキストを読んでくる		
⑬【目黒】中途障害者の心理				【事前】テキストを読んでくる		
⑭【目黒】精神障害者の心理				【事前】テキストを読んでくる		
⑮【目黒】重症心身障害児・者の心理、まとめ				【事後】⑧～⑮の復習する		
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座13「障害の理解」中央法規				その他参考文献など: 現代心理学の基礎と応用-人間理解と対人援助-芝垣正光 / 目黒達哉【編】(樹村房)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 障害を受けた人の個別性について考えてみよう。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

2 年

科目名: こころとからだのしくみ I				担当教員 氏名: 石黒 真弓		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
介護サービスを提供する際の心理的な根拠を理解する。多様な介護サービスに専門的に応えていくためには、エビデンスに裏付けられたサービスが必要であり、こころのしくみの基礎(人間として基本的な要求および心理学理論による人間理解とその方法)から学ぶ。人間の基本的・社会的な欲求、自己概念と尊厳、思考、学習、記憶、感情、動機づけなど。						こころ 人間の基本的・社会的な欲求 自己概念と尊厳 思考 学習 記憶 感情 動機付け
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			人間の基本的な心理について知識を身につけます			
C 論理的思考力			知識をもとに日常生活で起こりやすい事柄について自分なりに考えます			
F チームワーク・リーダーシップ			さまざまな考えをまとめ、集団活動に生かします			
H コミュニケーション力			自身の考えを主張するだけでなく、他者との調和を図るスキルを身につけます			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 30 %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: 50 %		
特記事項:						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:コメントを書いて返却します。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①こころのしくみを学ぶ意義(心理学の意義と歴史)				授業内の重要語句の意味を確認		
②人間の欲求の基本的理解 (心理学の対象と研究方法、人間の心理学的理解、人間理解のための心理学理論と技法)				人の欲求は何があるか考えよう		
③自己実現といきがい				いきがいは何かまとめてください		
④こころのしくみに関する基礎概念(思考)				思考のしくみの理解		
⑤こころのしくみに関する基礎概念(学習)				学習のしくみの理解		
⑥こころのしくみに関する基礎概念(記憶)				記憶のしくみの理解		
⑦まとめ(レポート)						
⑧こころのしくみに関する基礎概念(感情)				感情のしくみの理解		
⑨こころのしくみに関する基礎概念(認知)				認知のしくみの理解		
⑩こころのしくみに関する基礎概念(意欲)				意欲のしくみの理解		
⑪こころのしくみに関する基礎概念(動機づけ)				行動する理由を整理しよう		
⑫適応のしくみの理解				適応とは何か考えよう		
⑬人間の社会的欲求				人の欲求と関連付けてみよう		
⑭人間の尊厳について						
⑮まとめ(レポート)						
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座14 こころとからだのしくみ				その他参考文献など: 介護福祉士国家試験模擬問題集		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業では皆さんの積極的な発言を重視します。ヒトの心について考えていきましょう						

社会福祉学科			介護福祉 専攻		2 年	
科目名： 喀痰吸引				担当教員 氏名： 小出えり子、宮城和美、境美代子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 前期	専門選択科目	演習	選択		
授業科目の学習教育目標の概要：				キーワード		
①喀痰吸引について基礎的知識、実施手順および指導・評価方法を身につける。(結果確認報告の重要性を強調し、喀痰吸引について基礎的知識を身につける支援ができる。) ② 演習：喀痰吸引の演習に係る方法を理解できる。				医療的ケア たんの吸引経管栄養 安全・安楽 看護職員との連携・協力 感染対策		
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 9. 10		
A 知識・理解力		人体の構造や機能を学び、安全な喀痰吸引ができる基礎的知識を身につける。				
B 専門的技術		喀痰吸引について実施手順を理解できる。				
C 論理的思考力		安全管理体制の確保として医師・看護師・看護職員等で利用者の状態に関する情報の共有と報告、連絡相談等の連携の体制確保の重要性をのべることができる				
F チームワーク・リーダーシップ		刻々と変化する身体のアセスメントを行い、看護職員との連携・協力の重要性を理解し、報告できる。				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 40 %		レポート： 20 %		発表： %	実技試験： 20 %	その他： 20 %
特記事項：その他の20%は、授業態度、参加姿勢を評価します。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 第13・14回目に演習をする。第15回目にまとめをする。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：テストや提出レポートにコメントを記載して返却します。						
授 業 計 画			日付	事前・事後の学習課題		
①【小出・宮城】ガイダンス			4月6日	【事前】テキストを読む		
②【境】急変・事故発生時の対応について			4月13日	【事前】急変事故発生時の対応テキストを読む 【事後】②復習		
③【境】急変・事故発生時の対応について			4月20日	【事前】急変事故発生時の対応テキストを読む 【事後】③復習		
④【境】報告記録			4月27日	【事前】報告記録テキストを読む 【事後】④復習		
⑤【小出】呼吸のしくみ			5月11日	【事前】呼吸のしくみとはテキストを読む 【事後】⑤復習		
⑥【小出】痰のできるしくみについて(吸引器や吸引)について			5月18日	【事前】痰のできるしくみテキストを読む 【事後】⑥復習		
⑦【小出】子どもの吸引について、吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意			5月25日	【事前】子どもの吸引テキストを読む 【事後】⑦復習		
⑧【宮城】呼吸器系の感染と予防(吸引と関連して)			6月1日	【事前】感染予防テキストを読む 【事後】⑧復習		
⑨【宮城】痰の吸引により生じる危険、事後の安全確認			6月8日	【事前】痰の吸引の危険はテキストを読む 【事後】⑨復習		
⑩【小出】たんの吸引DVD			6月15日	【事前】痰の吸引テキストを読む 【事後】⑩復習		
⑪【境・宮城・小出】たんの吸引：演習室にてたんの吸引で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔の保持			6月22日 (木曜2限)	【事前】痰の吸引テキストを読む 【事後】復習		
⑫【境・宮城・小出】たんの吸引：演習室にてたんの吸引で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔の保持			6月22日 (木曜3限)	【事前】痰の吸引テキストを読む 【事後】復習		
⑬【境・宮城・小出】たんの吸引：演習室			6月22日 (木曜4限)	【事前】痰の吸引テキストを読む 【事後】復習		
⑭【境・宮城・小出】たんの吸引：演習室			6月22日 (木曜5限)	【事前】痰の吸引テキストを読む 【事後】復習		
⑮【宮城・小出】たんの吸引：まとめ			6月29日	【事後】全体の復習をする。まとめる。		
使用テキスト：新・介護福祉士養成講座 別巻「医療的ケア」中央法規出版 ※1年次購入済み ・写真でわかる介護職のための医療的ケア(インターメディカ)				その他参考文献など：DVDで学ぶ喀痰吸引・経管栄養の手順と留意点 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修用教材(＜DVD＞)		
受講上の留意点(授業担当者からのメッセージ)欄： 医療的ケアを介護福祉士が行うことの意味を自覚し、利用者の尊厳を守る行為として考えてほしい。医療的ケアは安全に行う必要があり、生命に関わる行為であることから、筆記試験、また、実技試験の修得に向けて、自ら学習し実技の練習をして下さい。 医療的依存度の大きい要介護者も増加しているが、要介護者の生活という視点を忘れずに、生活支援のあり方も同時に追求して欲しい。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

2年

科目名: 経管栄養				担当教員 氏名: 小出 えり子、宮城 和美、 蘭 直美、若瀬 淳子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門選択科目	演習	選択	介護福祉士指定科目ではありません (最下段・受講上の留意点参照)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
①経管栄養について基礎的知識を身につける支援ができる。②経管栄養の演習に係る指導・実施評価方法を身につける支援ができる」ことに目標を設定する。安全管理体制の確保として医師・看護師・看護職員等で利用者の状態に関する情報の共有と報告、連絡相談等の連携の体制確保の重要性を強調すること。						医療的ケア たんの吸引経管栄養 安全・安楽 看護職員との連携・協力 感染対策
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 9. 10	
A 知識・理解力			人体の構造や機能を学び、安全な経管栄養ができる基礎的知識を身につける。			
B 専門的技術			経管栄養:経管栄養について実施手順を理解する。			
C 論理的思考力			安全管理体制の確保として医師・看護師・看護職員等で利用者の状態に関する情報の共有と報告、連絡相談等の連携の体制確保の重要性をのべることができる。			
F チームワーク・リーダーシップ			刻々と変化する身体のアセスメントを行い、看護職員との連携・協力の重要性を理解し、報告できる。			
成績評価の方法:						
テスト: 40 %		レポート: 20 %		発表: %		実技試験: 20 % その他: 20 %
特記事項: その他の20%は、授業態度、参加姿勢を評価します。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第13・14回目に演習をする。第15回目にまとめをする。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: テストや提出レポートにコメントを記載して返却します。						
授 業 計 画				日付	事前・事後の学習課題	
①【小出・宮城】ガイダンス				4月3日	【事前】テキストを読む	
②【蘭】栄養に関する基本的な考え方について				4月10日	【事前】栄養についてテキストを読む 【事後】②復習	
③【蘭】経管栄養上の留意点				4月17日	【事前】経管栄養上の留意点テキストを読む 【事後】③復習	
④【宮城】経管栄養に関する感染と予防(吸引と関連して)				4月24日	【事前】感染と予防テキストを読む 【事後】④復習	
⑤【宮城】経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認について				5月1日	【事前】経管栄養により生じる危険テキストを読む 【事後】⑤復習	
⑥【若瀬】子どもの経管栄養について				5月8日	【事前】子どもの経管栄養テキストを読む 【事後】⑥復習	
⑦【若瀬】家族の気持ちと対応				5月15日	【事前】急変事故発生時の対応テキストを読む 【事後】⑦復習	
⑧【宮城】急変・事故発生時の対応と事前対策について				5月22日	【事前】急変事故発生時の対応テキストを読む 【事後】⑧復習	
⑨【宮城】緊急を要する状態について				5月29日	【事前】報告記録テキストを読む 【事後】⑨復習	
⑩【小出】経管栄養: DVD				6月5日	【事前】経管栄養テキストを読む 【事後】⑩復習	
⑪【若瀬・蘭・小出・宮城】経管栄養: 演習室にて経管栄養で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔の保持				7月20日 (木曜2限)	【事前】経管栄養テキストを読む 【事後】復習	
⑫【若瀬・蘭・小出・宮城】経管栄養: 演習室にて経管栄養で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔の保持				7月20日 (木曜3限)	【事前】経管栄養テキストを読む 【事後】復習	
⑬【若瀬・蘭・小出・宮城】経管栄養の技術: 演習室にて				7月20日 (木曜4限)	【事前】経管栄養テキストを読む 【事後】復習	
⑭【若瀬・蘭・小出・宮城】経管栄養の技術: 演習室にて				7月20日 (木曜5限)	【事前】経管栄養テキストを読む 【事後】復習	
⑮【小出・宮城】経管栄養のまとめと筆記テスト				7月24日	経管栄養の全体のまとめ	
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座 別巻「医療的ケア」中央法規出版 ※1年次購入済み ・写真でわかる介護職のための医療的ケア(インターメディカ) ※1年次購入済み				その他参考文献など: DVDで学ぶ喀痰吸引・経管栄養の手順と留意点 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養 研修用教材 (<DVD>)		
受講上の留意点(授業担当者からのメッセージ)欄: 医療的ケアを介護福祉士が行うことの意味を自覚し、利用者の尊厳を守る行為として考えてほしい。医療的ケアは安全に行う必要があり、生命に関わる行為であることから、筆記試験、また、実技試験の修得に向けて、自ら学習し実技の練習をして下さい。 医療的依存度の大きい要介護者も増加しているが、要介護者の生活という視点を忘れずに、生活支援のあり方も同時に追求して欲しい。						









社会福祉学科

介護福祉 専攻

2 年

科目名： 介護福祉研究					担当教員 氏名： 宮嶋潔、中野慎夫、成瀬優知 毛利巨、宮城和美、他	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	通年	専門必修科目	演習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
自信で研究テーマを決定し、1年間を通して福祉に関する研究を、AD教員の指導のもとに取り組み、課題解決や実践現場のプロとしての研究法を身につける。						研究計画 研究アプローチ 考察
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 8. 9.	
A 知識・理解力			福祉に関する研究に関する知識を、指導や文献調査によって修得することができる			
B 専門的技術			福祉に関する実践的専門技術を、研究を通して学ぶことができる			
C 論理的思考力			想起・研究・考察・実践のプロセスを理解し、思考することによって課題解決を模索することができる			
D 問題解決力			研究を通して、問題・課題を明確化し、対応策を模索することができる。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %		レポート： %		発表： 50 %	実技試験： %	その他： 50 %
特記事項： その他とは、1年間を通しての研究の取り組みの姿勢、提出物等の遵守をいいます。 本科目は、アクティブ・ラーニングの一環として、学生が実際に調査・研究活動を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：後期の始めに中間報告会、年度の終わりに発表会を行います。それに関する論文等の提出を義務付けます。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：						
使用テキスト： 前期開始時に示します					その他参考文献など：	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：積極的に、探究心を持って取り組んでください。						
授 業 計 画						事前・事後の学習課題
回数						
1	年間の予定の確認・研究とは					
2	研究方法					各ADごとの取り組みとなるため、統一した事前・事後学習には適さない。
3	研究テーマを考える					
4	研究テーマ及び方法を考える					
5	研究テーマの決定と指導教員の決定					
6	以降、指導教員ごとに展開					
7	研究テーマ・サブタイトルを考える					

※前ページよりつづき

社会福祉学科

介護福祉 専攻

2 年

科目名： 介護福祉研究

担当教員 氏名： 宮嶋潔、中野慎夫、成瀬優知  
毛利巨、宮城和美、他

8	研究計画を立てる	
9	以降、研究活動	各ADごとの取り組みとなるため、統一した事前・事後学習には適さない。
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16	中間報告会	
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27	論文提出	
28		
29	パワーポイントデータ提出及び発表会リハーサル	
30	研究発表会	

科目名: 生と死の倫理学				担当教員 氏名: 宮島 光志		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	総合選択科目	講義	選択		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
この授業では人間の生と死をめぐる倫理問題(告知、安楽死、ターミナルケア、臓器移植など)を検討し、複雑な現代社会で「善く生きる」とはどういうことかを考えます。そして「死に臨む存在」であり共同存在でもある人間に対する理解を深めて、福祉関連の仕事に携わることの責任を自覚してもらいます。					・倫理 ・間柄 ・いのち ・人生 ・人間の尊厳 ・ケア ・死生観	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 6. 7. 10		
A 知識・理解力	いのちの尊さ、死の哲学的意味と死をめぐる倫理的な諸問題を理解する。					
B 専門的技術	利用者のニーズを受けとめ、看取りの場に寄り添うことの意味を理解する。					
C 論理的思考力	何が善であり、倫理的に正しいことであるかを、論理的に(根拠に基づいて)考察する。					
G 倫理観	医療倫理の全体像を理解し、利用者とその家族の人権を守るために、専門職の立場で倫理的に行動できる。					
H コミュニケーション力	利用者の思いに共感し、それを受けとめることができる。それと同時に、自分の考えを利用者やその家族に伝えることができる。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 70 %	レポート: %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: %		
特記事項: 本科目は、アクティブ・ラーニングの一環として、ビデオ教材などを用いた事例検討(問題発見と課題解決)を6回、グループ・ワークとして実施します。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 小テスト(復習)を4回、グループ・ワークによる「事例検討」とその成果発表を6回、そして最終回に最終テスト(総まとめ)を実施します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 小テストを4回行い、採点し返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①生と死の倫理学を学ぶ意義:「死を見つめて生きる」覚悟とは?		4月5日	【事後】①の復習(以下【事後】は省略)			
②ガン告知:倫理的な諸問題の概観		4月12日	【事前】教科書25頁から38頁を読む。			
③ガン告知:事例検討(ドラマ教材「ほんとうのこと」)		4月19日	【事前】グループ編成の方法を検討する。			
④インフォームド・コンセント(IC):倫理的な諸問題の概観		4月26日	【事前】教科書38頁から50頁を読む。			
⑤IC:事例検討(ドラマ教材「セルフコントロール」);小テスト(1)		5月10日	【事前】小テストの準備(②③の範囲)			
⑥ホスピス・ケア:倫理的な諸問題の概観		5月17日	【事前】教科書50頁から69頁を読む。			
⑦ホスピス・ケア:事例検討(新聞記事を活用する);小テスト(2)		5月24日	【事前】小テストの準備(④⑤の範囲)			
⑧徳倫理について:ビデオ教材「徳こそ徳の源なのか?」の検討		5月31日	【事前】配布資料(徳倫理の説明)を読む。			
⑨安楽死と尊厳死:倫理的な諸問題の概観		6月7日	【事前】教科書77頁から90頁を読む。			
⑩安楽死と尊厳死:事例検討(ドラマ教材「春の約束」);小テスト(3)		6月14日	【事前】小テストの準備(⑥⑦の範囲)			
⑪脳死と臓器移植:倫理的な諸問題の概観		6月21日	【事前】教科書91頁から125頁を読む。			
⑫脳死と臓器移植:事例検討(ドラマ教材「ぬくもりの境界線」)		6月28日	【事前】小テストの準備(⑨⑩の範囲)			
⑬出生前診断と障害児の生命権:倫理的な諸問題の概観;小テスト(4)		7月5日	【事前】教科書136頁から158頁を読む。			
⑭出生前診断と障害児の生命権:事例検討(ドラマ「私たちの選択」)		7月19日	【事前】⑪~⑬の学修内容を整理する。			
⑮まとめ:生命の誕生と終焉に臨む倫理学と社会福祉		7月26日	【事前】最終テストの準備をする。			
使用テキスト: 小松奈美子『[改訂版]医療倫理の扉—生と死をめぐる—』(北樹出版, 2012)				その他参考文献など: 川本隆史(編集)『ケアの社会倫理学—医療・看護・介護・教育をつなぐ』(有斐閣, 2005)、清水哲郎ほか(編集)『人生の終わりをしなやかに』(三省堂, 2012)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業の予習と復習は当然のことですが、特に講義時間内に実施する「グループ・ワーク」(事例検討)にしっかり取り組んでもらいたいと思います。						

科目名: 市民活動論				担当教員 氏名: 宮嶋 潔		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	総合選択科目	演習	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
<p>近年、ボランティア活動やNPO活動など、様々な市民活動が活発化しており、今後もますます市民活動の果たす役割は重要なものとなる。本科目では、ボランティア活動・NPO活動の歴史・理念や日本《富山県》におけるボランティア活動・NPO活動の現状や課題について学ぶことを通して、市民活動についての理解を深める。</p>						<p>ボランティア(活動)、奉仕活動、NPO(活動)、市民活動、ボランティアセンター、ボランティアコーディネーター</p>
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 8. 10	
A 知識・理解力			市民活動(ボランティア・NPO活動含む)について、その意義や役割について理解することができる。			
C 論理的思考力			市民活動に関する知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。			
F チームワーク・リーダーシップ			他者と協調・協働して行動できる。			
G 倫理観			尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につける。			
H コミュニケーション力			福祉専門職として他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を身につける。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: %		発表: 20 %		実技試験: %
その他: 30 %						
特記事項: 「その他:30%」では、授業態度について評価する。 本科目は、アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッションを活用し、ボランティア活動プログラムの企画を行い、プレゼンテーションを行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第7回目と第15回目						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 第7回目と第15回目に実施するテストに評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション～ボランティア活動と奉仕活動～				演習を振り返る		
②ボランティア活動の歴史～COS運動とセツルメント運動～				演習を振り返る		
③日本とアメリカのボランティア活動の違い				演習を振り返る		
④日本国内のボランティア活動の現状と課題				演習を振り返る		
⑤富山県内のボランティア活動の現状と課題				演習を振り返る		
⑥ボランティアセンターとボランティアコーディネーター				演習を振り返る		
⑦自分のまちのボランティア活動・中間まとめ				演習を振り返る		
⑧世界のNPO				演習を振り返る		
⑨日本のNPO				演習を振り返る		
⑩NPOと法律				演習を振り返る		
⑪NPOの存在意義とは				演習を振り返る		
⑫NPO活動の実際				演習を振り返る		
⑬市民活動とは				演習を振り返る		
⑭市民活動の意義と課題				演習を振り返る		
⑮福祉専門職と市民活動・まとめ				演習を振り返る		
使用テキスト: 「ボランティア・NPO用語事典」中央法規				その他参考文献など: 「よくわかるNPO・ボランティア」川口清史, 田尾雅夫, 新川達郎【編】ミネルヴァ書房		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ボランティア活動に興味や関心のある学生の受講を期待します。						

社会福祉学科			介護福祉 専攻		2 年	
科目名: 臨床美術の実践 I				担当教員 氏名: 北澤 晃、岡野 宏宣		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門選択科目	演習	選択	臨床美術士4級	
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
臨床美術士として、アートプログラム制作を通して造形的な技術・技法を習得すると共に、それを用いて主体的にロールプレイングや現場実習などアクティブ・ラーニングすることによって福祉施設などでアート活動を行うための実践力を身に付ける。				・臨床美術 ・右脳の活性化 ・認知症 ・コミュニケーション		
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 7. 8.		
A 知識・理解力	右脳の活性化と認知症について理解することができる。					
B 専門的技術	状況や関係を把握して様々な素材の使用法や表現技法を習得する。					
D 問題解決力	「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報を収集・分析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。					
F チームワーク・リーダーシップ	リーダー・サブリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。					
H コミュニケーション力	造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 30 %	発表: 30 %	実技試験: 30 %	その他: 10 %		
特記事項: ・事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。 ・成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内での発言。実技試験はロールプレイングの理解と実践力。その他は積極性を指す。 ・本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として学生が自ら課題意識を持ち、対象者に対して臨床美術セッションを行い、実践力を身に付け、事前の準備を含めた企画、実施、記録を行います。 毎回の準備物: 脳いきいきボックス、新聞紙(朝刊1日分)、スティック糊、割り箸ペン、クロッキー帳、ウェットティッシュ 鉛筆2Bか4B						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画				準備物/事前・事後の学習課題		
【岡野】授業ガイダンス				4月3日	(※受講上の留意点参照)	
①【北澤】臨床美術基幹Ⅱ-①「臨床美術研究成果」				4月10日		
②【北澤】臨床美術アートプログラム制作「思い出の空」				4月10日		
③【岡野】臨床美術アートプログラム制作「土偶」				4月17日	準備物: 4~5cmの石1個	
④【岡野】臨床美術コミュニケーションⅡ「ギャラリートーク」				4月17日		
⑤【北澤】臨床美術アートプログラム制作「石のアナログ画」				5月1日	準備物: こぶし大の石1個	
⑥【岡野】臨床美術アートプログラム制作「アジの干物を描く」①				5月8日		
⑦【岡野】臨床美術アートプログラム制作「アジの干物を描く」②				5月8日		
⑧【北澤】臨床美術学演習 「つまづき、ルービンの壺、純粋輪郭画、修正輪郭画」				5月15日	事前課題: フォルメン、フリー実習(計画書) 準備物: 鉛筆(2B、4B)3本	
⑨【岡野】臨床美術学演習「白と黒の魔術、右脳的な見方、きみ子方式」				5月22日	事前課題: クレーの模写 準備物: 鉛筆(2B、4B)3本	
⑩【岡野】臨床美術学演習「ジェスチャー画」				5月22日	準備物: プラスティックスプーン	
⑪【北澤】臨床美術教材研究「共同制作」				5月29日	準備物: プラスティックスプーン1本	
⑫【北澤】臨床美術教材研究「アートプログラムにおける造形素材」				5月29日		
⑬【岡野】臨床美術コミュニケーションⅡ 「現場セッションについて(プロコリール)、子どもの現場セッションのDVD」				6月5日	準備物: 5級テキスト	
⑭【北澤】指導案演習「実習に向けての試作」				6月12日	持ち物: 実習用アートプログラム、りんご	
⑮【北澤】臨床美術コミュニケーションⅡ「鑑賞会」				6月12日	事前課題: 実習プログラム試作品	
使用テキスト: 『臨床美術士養成講座4級』, 芸術造形研究所 『臨床美術 認知症医療と芸術のコラボレーション』, 芸術造形研究所				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目は「臨床美術」の単位取得者のみ受講できます。 4月 日の授業ガイダンスで授業の内容と日程について説明します。受講者は欠席しないようにしてください。 本科目は2コマ続けて行う授業になります。また開講日も不規則なため、授業日をよく確認してください。 ※本科目は事前課題が多い科目です。課題の提出日を常に確認してください。提出日直前に事前学習では対応できませんので、毎回計画的に進めるようにしてください。(事前・事後学習課題の欄には提出日のみを記載してあります。)						

社会福祉学科			介護福祉 専攻		2 年	
科目名: 臨床美術の実践Ⅱ				担当教員 氏名: 北澤 晃、岡野 宏宣		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 後期	専門選択科目	演習	選択	臨床美術士4級	
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
臨床美術士として、アートプログラム制作を通して造形的な技術・技法を習得すると共に、それを用いて主体的にロールプレイングや現場実習などアクティブ・ラーニングすることによって福祉施設などでアート活動を行うための実践力を身に付ける。				・臨床美術 ・右脳の活性化 ・認知症 ・コミュニケーション		
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 7. 8.		
A 知識・理解力	右脳の活性化と認知症について理解することができる。					
B 専門的技術	状況や関係を把握して様々な素材の使用法や表現技法を習得する。					
D 問題解決力	「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報を収集・分析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。					
F チームワーク・リーダーシップ	リーダー・サブリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。					
H コミュニケーション力	造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 20 %	発表: 20 %	実技試験: 50 %	その他: 10 %		
特記事項: ・事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。 ・成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内での発言。実技試験はロールプレイング、現場実習の理解と実践力。その他は積極性を指す。 ・本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として学生が自ら課題意識を持ち、対象者に対して臨床美術セッションを行い、実践力を身に付け、事前の準備を含めた企画、実施、記録を行います。						
毎回の準備物: 脳いきいきボックス、新聞紙(朝刊1日分)、スティック糊、割り箸ペン、クロッキー帳、ウェットティッシュ、鉛筆2Bか4B						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画				準備物/事前・事後の学習課題※		
①【岡野】指導案演習「フリー実習振り返り」		10月6日		事前課題: フリー実習(報告書) 様々な技法を試す・様々な紙を試す		
②【岡野】指導案演習「ロールプレイング①」		11月10日		準備物: りんご1個		
③【岡野】指導案演習「ロールプレイング②」		11月10日				
④【北澤・岡野】指導案演習「実習事前指導」「実習準備」		12月1日				
⑤【北澤・岡野】現場実習 ※⑤⑥⑦の現場実習は連続して行います。		12月8日(15日)				
⑥【北澤・岡野】現場実習		12月8日(15日)		※()は予備日です。 授業日は事前に授業内にて連絡します		
⑦【北澤・岡野】現場実習		12月8日(15日)				
⑧【北澤・岡野】指導案演習「実習振り返り」		12月22日		準備物: 実習現場記録表、課題図書レポート		
⑨【北澤】指導案演習「五感のアナログ画ロールプレイング①」		1月12日		事前課題: ゴーギャンの模写		
⑩【北澤】指導案演習「五感のアナログ画ロールプレイング②」		1月12日				
⑪【岡野】臨床美術基幹Ⅱ-②「臨床美術プロデュース」		1月19日				
⑫【岡野】「総括」「認定後の活動」		1月19日		臨床美術協会認定申請書 (課題をすべて提出してある学生) 準備物: 臨床美術ハンドブック		
使用テキスト: 『臨床美術士養成講座4級』, 芸術造形研究所 『臨床美術 認知症医療と芸術のコラボレーション』, 芸術造形研究所				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ※本科目は「臨床美術」「臨床美術の実践Ⅰ」の単位取得者のみ受講できます。 本科目は日程が不規則になっています。授業日時をよく確認してください。 ※本科目は事前課題が多い科目です。課題の提出日を常に確認してください。提出日直前に事前学習では対応できませんので、毎回計画的に進めるようにしてください。(事前・事後学習課題の欄には提出日のみ記載してあります)						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

2 年

科目名： 職業選択と自己実現				担当教員 氏名： 車 吉章					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	前期	総合選択科目	演習	選択				
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
自己の気づきをしながら、自らの能力と社会でのその活かし方を学ぶ。						自己探求			
授業科目の到達目標									
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 8.				
E 自己管理能力			自己発見						
F チームワーク・リーダーシップ			グループワーク実践を通じて「積極性」を身につける。						
H コミュニケーション力			ゲーム実践、マナー実践を体験し、社会人としての自覚を身につける。						
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	%	発表：	50 %	実技試験：	30 %	その他：	20 %
特記事項： 個人カウンセリング、コミュニケーション実践などを取り入れた授業の中で自分というものを見つめ発見していく。									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 主にグループワークを中心とする。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：毎時間毎に「ふりかえりシート」を記入。質問等に関しては次の時に渡す。									
授 業 計 画				事前・事後の学習課題					
①キャリアとは？				4月5日	事後：ふりかえりシート作成				
②受講にあたっての注意事項、自己分析作業				4月12日	事前：自己分析表作成				
③自己発見作業				4月19日	事前：自己理解シート作成				
④コミュニケーション実践(発声、呼吸法など)				4月26日	事前：あいさつ実践(個人)				
⑤コミュニケーション実践(発声、会話テクニックなど)				5月10日	事前：あいさつ実践(グループ)				
⑥コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)				5月17日	事前：あいさつ実践(グループ)				
⑦コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)				5月24日	事前：コミュニケーション実践(グループワーク)				
⑧コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)				5月31日	事前：コミュニケーション実践(グループワーク)				
⑨コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)				6月7日	事前：コミュニケーション実践(グループワーク)				
⑩コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)				6月14日	事前：外部ゲスト講演				
⑪コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)				6月21日	事前：外部ゲスト講演				
⑫コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)				6月28日	事前：外部ゲスト講演				
⑬コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)				7月5日	事前：マナー実践				
⑭コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)				7月19日	模擬面接練習(事後：ふりかえりシート)				
⑮コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)				7月26日	模擬面接試験				
使用テキスト： 講師側で準備				その他参考文献など： みんなのキャリアデザイン(文芸社)					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 時間を守る、挨拶、自己紹介などやスピーチテクニックなど文字や映像だけでは理解できない、理解しづらい事を体感して学んでいく授業です。外部からのゲストを招いての講義も予定。									